

ひょうご伝説紀行
妖怪と自然の世界



唐櫃の黄金の鶏

村の行事と大きな石



鷲の地主神

如意尼とソランジン

伝説

唐櫃の黄金の鶏

村の行事と大きな石

鷲の地主神

如意尼とソランジン

紀行

鳥

・金鶏伝説

・寺院と地主神

関連情報

用語解説

参考書籍

所在地リスト

伝説

唐櫃の黄金の鶏 村の行事と大きな石

神戸の北、六甲山（ろっこうさん）を越えたところに唐櫃（からと）というところがあります。そのむかし、神功皇后（じんぐうこうごう）という人が朝鮮半島（ちょうせんはんとう）で戦争をして帰ってきたときに、武器や衣服といっしょに、雌雄（しゆう）二羽の黄金の鶏（にわとり）を石の唐びつ（唐櫃）に納めてうめたので、ここを唐櫃と呼ぶようになったと伝えられています。

唐びつがうめられたと伝えられるところには、後に石の祠（ほこら）がまつられるようになりました。そのまわりは大きな森になっています。これをヌノド（布土）の森と人々は呼んでいます。また、唐櫃には、節分の夜、子供たちが鶏の鳴きまねをする行事が残されています。村の神社で、「トテコロー。」「クー、クー。」と鳴きまねをします。

この金の鶏は、村がよほどおとろえたときでないかぎり、掘り出してはならないと伝えられています。また、唐びつが埋められたところは、本当は森の中のもう少し北にある大きな石の下だとも伝えられています。この大石は大事にしないといけないとされていて、あるとき、村人がこの大石にこしかけて休んだので、病気になって苦しんだと言われています。

（『神戸の伝説』をもとに作成）

伝説

鷲の地主神 如意尼とソランジン

平安時代のはじめのことです。都から、天皇のお后（きさき）が今の西宮（にしのみや）へやってきました。お后は夢の中で女神から、甲山（かぶとやま）にお寺を建てるように、とのお告げを受けていました。六甲（ろっこう）の山なみの東のはずれ、ひとつだけ独立してとがっているのでよく目立つ山があります。それが甲山です。

一行は、そのころこのあたりで一番大きい神社だった広田神社（ひろたじんじゃ）にお参りしてから、甲山へと曲がりくねった坂道を上りはじめました。やがて、紫（むらさき）の美しい雲がたなびいてきて、美しい女性があらわれました。

「私は広田の神です。ここはたいへんに良いところです。ここにお寺をお建てなさい。」

そう言うと、女性は姿を消しました。お后はとてもよるこんでその場所にお寺を建てました。そして、髪（かみ）をおろして仏に仕える身となって、如意尼（によいに）と名乗り毎日修行にはげんでいました。

ところが、お寺から見て西の方の山に大きな鷲（わし）が住んでいました。その山は常に黒い雲におおわれ、ときどき火の玉がふき出ていました。その火の玉は、大鷲がはきだす火だったのです。ある日、とうとう大鷲は火をはきながらお寺に近づき、寺を燃やしてしまおうとおそいかかってきました。

如意尼は、仏にお供えするための井戸水を運ばせ、鷲がはく火に注ぎかけました。すると火はどんどん小さくなり、消えてしまいました。大鷲は、かなわないと見て西の山へと帰っていきました。

この大鷲は、西の山に古くから住んでいるソランジンという神が姿を変えたものでした。ソランジンは、もともとは自分が神としてあがめられていたのに、近ごろは仏教の教えが広まり、人々は仏教をありがたがって自分をないがしろにするので、日ごろから面白くないと思っていたのです。

そんなことがあってから、如意尼は弘法大師（こうぼうだいし）を招き、いろいろなことを教えてもらいながら、大鷲のことをどのようにしたらよいか相談しました。大師は、

「どんなに悪い神でも、けっしてにくんではなりません。ソランジンはこの地方のもともとの神といます。言うならば地主神（じぬしがみ）です。東の谷に大きな岩があるので、その上にソランジンをおまつりしてあげるとよいでしょう。そうすればもう悪いことはしなくなるはずです。」

如意尼は、そのとおりにソランジンをまつりました。それからというもの、もう大鷲がお寺をおそうこともなくなったということです。

（『西宮ふるさと民話』をもとに作成）

紀行 鳥

金鶏伝説

あるところに金の鶏が埋まっていて、村が危機になったときにだけ掘り出してよい、とする話。これを金鶏（きんけい）伝説といい、全国各地に伝わっている。その広がりには日本のみではなく、中国や西洋にも類話があるという。

県域では、摂津国八部郡（せつつのくにやたべぐん）、有馬郡（ありまぐん）から播磨国美囊郡（はりまのくにみのうぐん）にかけて、現在の行政区分で言うと神戸市北区・西区から三木市（みきし）にかけてが、この伝説が比較的目立つ地域である。その一つ、現在は戸建てニュータウンと、古くからの農村が共存している神戸市北区の唐櫃台（からとだい）周辺を訪ねてみた。

伝説の舞台となり、唐櫃の地名の由来ともなっているヌド（布土）の森は、小学校の脇にあった。森の中には石の祠（ほこら）があり、かつては近所の人たちがお供えもしていたという。近くには宝篋印塔（ほうきょういんとう）の一部も転がっていた。



ヌドの森



ヌドの森



森の中の祠



森の中の石



宝篋印塔残欠

また、子供たちが鶏の鳴きまねをする行事が行われる神社は、下唐櫃の山王神社のことである。現在も、2月3日の節分の日（うるう年の場合は2月4日）の夜に行われている。地区では、この行事を「東天紅（トテコロ）」と呼び、古くはヌドの森の祠で行っていたとも伝えられているという。



下唐櫃 山王神社



下唐櫃 山王神社

このあたりの金鶏伝説は、唐櫃のように神功皇后（じんぐうこうごう）伝説と結びついている場合が多い。神功皇后伝説は大阪湾沿岸に色濃く伝えられ、県域でも摂津や播磨の瀬戸内海に近い地域を中心に伝わっている。たとえば、後で紹介する神呪寺（かんのうじ）がある甲山（かぶとやま）も、神功皇后が武器や宝物を埋めたところと伝えられている。

六甲山頂付近にある「石の宝殿（ほうでん）」も、金鶏埋蔵伝説と神功皇后伝説が結びついている。ここは神功皇后が朝鮮半島から持ち帰った神の石を納めたところで、祠のそばの三ツ葉ウツギの根元には金鶏が埋まっている、とされている。



六甲山白山神社 石の宝殿

主役が源義経（みなもとのよしつね）になっている場合もある。須磨区白川（すまくしらかわ）では、集落奥の山中に「宝山」と呼ぶところがあり、一の谷の合戦に向かう途中、義経が雄と雌の金の鶏を埋めたと伝えられている。白川などの六甲山西麓には、江戸時代に鶴越（ひよどりごえ）と呼んだ神戸と三木をつなぐ交通路と、そこから須磨方面に派生する枝道に沿って、義経が戦場へ向かった話にちなむ伝説が多い。

金鶏伝説は、神戸周辺から離れると、かつて大変な長者がいたという長者屋敷伝説や、地域を治める領主が住んでいたという城跡伝説と結びついている場合が多い。たとえば養父市高柳（やぶしたかやなぎ）の近くの「梶原（かじわら）」という丘にある、太郎兵衛長者（たろべえちょうじゃ）という富豪の屋敷跡には財宝が埋まっていた、節分の夜には金の鳥が飛び回る、とされている。こうした伝説は全国各地に無数に見られる。



神戸市須磨区白川

神戸周辺の場合は、神功皇后や源義経など、地域に特徴的な人物と金鶏が結びついている。やはり金鶏は、長者や地域と関わった歴史上の偉人など、英雄との関連が深いのであろう。金鶏伝説には、村が危機に陥ったときに限って掘り出してよい、という話がついている場合が多いが、これも地域の英雄に村を守ってほしいという願望を反映したものではないだろうか。

寺院と地主神

つぎに、鷲にまつわる伝説を紹介しよう。六甲山の東、甲山（かぶとやま）の中腹にある神呪寺。このお寺の開基伝説に、建立を妨害する荒神（こうじん）として鷲が登場する。



神呪寺



神呪寺



山門



神呪寺(『摂津名所図会』)



広田神社



広田神社(『摂津名所図会』)

西の方にある山とは六甲山が想定されていると見られる。神呪寺からやや西方の六甲山の山裾には、鷲林寺（じゅうりんじ）という寺院もある。この鷲林寺にも神呪寺とよく似た開基伝説が伝わっていて、境内には、最近建立されたものであるが、鷲の地主神をまつる荒神堂（こうじんだう）もある。



鷲林寺



石造七重塔



荒神堂

神呪寺も鷲林寺も、真言宗（しんごんしゅう）の寺である。真言宗の総本山高野山金剛峰寺（こうやさんこんごうぶじ）にも、似たような話がある。高野山に寺を開こうとした弘法大師空海（こうぼうだいしゅうかい）を案内したのが、白と黒の2頭の犬を連れた高野明神（こうやみょうじん、「狩場明神（かりばみょうじん）」とも呼ばれる）で、空海に高野山の敷地を譲ったのが、丹生都比売明神（にうつひめみょうじん）であるとされている。両者ともに、高野山の鎮守神としてまつられている。

紀行文「姫山の地主神」でも紹介したように、新しく地域に入ってきた人々は、それ以前からまつられていた神、すなわち地主神を尊重しなくてはならなかった。寺院の世界でも、真言宗に限らず、寺ができる以前から寺域周辺で信仰されていた地主神をまつることは一般的である。神呪寺、鷲林寺の開基伝説については、宗派のつながりから見て、高野山の地主神伝説が影響していると考えてよいであろう。

用語解説

【宝篋印塔】ほうきょういんとう

本来は「宝篋印陀羅尼經（ほうきょういんだらにきょう）」を納めるための塔。日本ではとくに石塔の場合、墓碑や供養塔として建てられるようになっていた。石塔としては、鎌倉時代中ごろからの遺品が残る。形状は、方形の基礎、基礎よりも小ぶりな塔身、笠形の屋根、円筒状の相輪からなる。屋根には四隅に隅飾（すみかざり）と呼ばれる突起が立てられる。この隅飾りの開きぐあいに時代ごとの特徴がよくあらわれ、古いものほど直立し、新しいものは外側へ開いていく傾向がある。

【神功皇后】じんぐうこうごう

『古事記（こじき）』、『日本書紀（にほんしょき）』の神話に現れる伝説上の人物。夫である仲哀天皇（ちゅうあいてんのう）の急死後、住吉の神のお告げによって、子供の応神天皇（おうじんてんのう）を妊娠したまま朝鮮半島に出兵して、朝貢を約束させたという。また、朝鮮半島から畿内へ帰る途中、香坂皇子（かごさかおうじ）、忍熊皇子（おしくまおうじ）が反乱をおこして行く手をさえぎったが、これを平定したという。

【源義経】みなもとのよしつね

1159 - 89。源義朝（みなもとのよしとも）の九男。平治の乱（1159年）で父が敗死した後、鞍馬山（くらまやま）に預けられるが、後に脱出して陸奥国平泉（むつのくにひらいずみ = 現在の岩手県平泉町）へ向かい、藤原秀衡（ふじわらのひでひら）の庇護を受けた。

治承4（1180）年に兄の頼朝（よりとも）が挙兵すると平泉を離れてこれに合流する。寿永2（1183）年末に兄の範頼（のりより）とともに頼朝の代官として軍勢を率いて出陣し、翌年1月に源義仲（みなもとのよしなか）を討ち取る。ついで同年2月には一の谷の戦い（いちのたにのたたかい = 現在の神戸市）で平家に壊滅的打撃を与えた。翌元暦2（1185）年2月に讃岐国屋島（さぬきのくにやしま = 現在の香川県高松市）で平家を破り、続いて3月に長門国壇ノ浦（ながとのくにだんのうら = 現在の山口県下関市）で平家を滅ぼした。

しかしその直後から頼朝との対立が深まり、文治元（1185）年11月に西国へ向けて都を離れるが、大物浦（だいまつうら = 現在の尼崎市）付近で嵐のために遭難、以後陸奥国平泉へ逃れて再び奥州藤原氏の庇護を受ける。しかし、秀衡没後の文治5（1189）年4月、頼朝からの圧力に屈した藤原泰衡（やすひら）によって殺害された。

【高野山金剛峰寺】こうやさんこんごうぶじ

和歌山県高野町（わかやまけんこうやちょう）にある高野山真言宗（しんごんしゅう）の総本山。京都の東寺（とうじ）とともに、弘法大師空海（こうぼうだいしゅうかい）が活動拠点にした寺院として真言密教（しんごんみっきょう）の聖地とされる。

弘仁2（816）年、空海は真言密教の道場として、高野山の地を朝廷から与えられ、伽藍（がらん）を建立した。紀行文「鳥」で述べた、高野明神と丹生都比売明神から寺地を譲られたとの伝説は、平安中期に成立したと見られる『金剛峰寺修行縁起（こんごうぶじしゅうぎょうえんぎ）』から見られるものである。

用語解説

【弘法大師空海】こうぼうだいしゅうかい

774 - 835。日本に真言密教（しんごんみつきょう）をもたらした平安時代初めの僧侶。同じ時期に天台宗をもたらした伝教大師最澄（でんぎょうだいしさいちょう）とならんで、この時期の日本仏教を代表する人物。延暦23（804）年遣唐使留学僧として入唐。長安（ちょうあん）青龍寺の恵果（えか、「けいか」とも言う）に真言密教を学ぶ。大同元（806）年帰国。弘仁7（816）年朝廷より高野山に金剛峰寺（こんごうぶじ）を開くことを許される。弘仁14（823）年朝廷より東寺（とうじ）を与えられ、真言密教の道場とした。承和2（835）年死去。延喜21（921）年、朝廷から弘法大師の諡号（しごう、死後の贈り名）が与えられた。

参考書籍

伝説の参考書籍

書籍名	刊行年	著者名	発行者
西宮ふるさと民話	1990	編集:西宮市郷土資料館	西宮市教育委員会
神戸の伝説	1998	田辺真人	神戸新聞総合出版センター

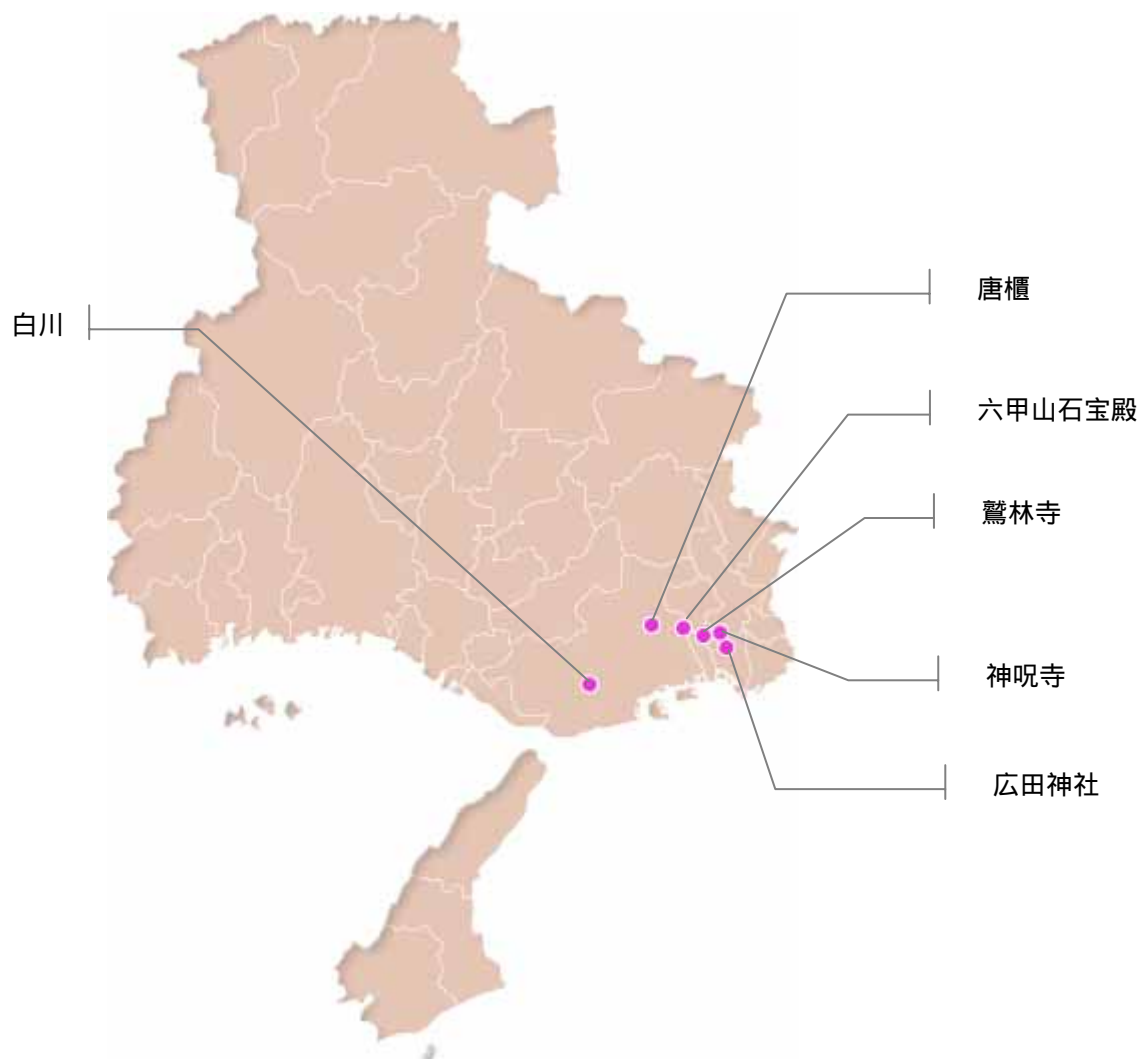
歴史・文化の参考書籍

書籍名	刊行年	著者名	発行者
播州名所巡覧図絵	1974	著者:秦石田、校訂:井口洋	柳原書店
西摂大観 郡部	1911 (1965復刻)	編纂:仲彦三郎	明輝社(復刻:内外書房)
日本伝説集	1913 (1973復刊)	高木敏雄	郷土研究社 (復刊:宝文館出版)
武庫郡誌	1921 (1973復刻)	編纂:兵庫県武庫郡教育会	兵庫県武庫郡教育会 (復刻:名著出版)
有馬郡誌 上	1929 (1974復刻)	編纂:山脇延吉	兵庫県有馬郡会 (復刻:名著出版)
摂播金鶏伝説地一覧(収録:『兵庫県民俗資料』1)	1932	河本正義	兵庫県民俗研究会
伝説の系統及び分類(収録:『定本柳田國男集』5)	1962	柳田國男	筑摩書房
郷土の民話 東播編	1972	編集:"郷土の民話"東播地区編集委員会	兵庫県学校厚生会
甲山 神呪寺史	1981	編集:神呪寺	神呪寺
八鹿のむかし話	1982	編集:ふるさと文庫編集委員会	八鹿町
有野町誌	1988	編集:神戸市有野更正農業協同組合	神戸市有野更正農業協同組合
阪神間の民話散歩 むかしと今と	1987	編集:読売新聞阪神支局	阪神読売会
日本伝説大系 8 北近畿編	1988	編集:福田晃	みずうみ書房

その他の参考資料

書籍名	刊行年	著者名	発行者
鷲林寺と麿乱荒神(境内配布パンフレット)	2008	編集:鷲林寺	鷲林寺

所在地リスト



白川	神戸市須磨区白川
唐櫃	神戸市北区唐櫃台
六甲山石宝殿	西宮市山口町、芦屋市奥山
鷲林寺	西宮市鷲林寺町4-8
神呪寺	西宮市甲山町25-1
広田神社	西宮市大社町7-7

ひょうご歴史ステーション「ひょうご伝説紀行」は、兵庫県立歴史博物館により管理・運営しております。サイトで使用するテキスト・画像などのコンテンツ全般の著作権は当館に帰属し、無断での複写・転用・転載などを禁止いたします。

ひょうご伝説紀行 妖怪・自然の世界
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~rekihaku-bo/historystation/legend3/>

編集発行 兵庫県立歴史博物館
〒670-0012 兵庫県姫路市本町6-8 079-288-9011

第1刷 2009年4月1日